

平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 2 月鳥類調査 速報

●実施状況

令和 2 年 2 月 10 日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温 6.0～9.4℃、北～北東の風、風速 0.5～2.0m/sec であった。調査当日は大潮で、干潮が 11 時 55 分(73cm)、満潮は 17 時 27 分(194cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

| | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 | 葛西人工渚 |
|-----------|-----------------|---------------------------------|--------------------|
| 作業時刻 | 9:35-10:40 | 11:09-11:57 | 12:46-14:06 |
| 天候 | 晴 | 晴 | 晴 |
| 気温(℃) | 6.0 | 8.1 | 9.4 |
| 風向 | 北 | 北東 | 北東 |
| 風速(m/sec) | 2.0 | 0.5 | 1.5 |
| 備考 | 風が弱く、波は穏やかであった。 | 風は弱く、波も穏やか。最干潮時刻でも、干潟の干出は少なかった。 | 調査終了頃には、潮が満ち始めていた。 |

●主な出現種等

| | お台場海浜公園 | 森ヶ崎の鼻 | 葛西人工渚 |
|--------------------|---|--|---|
| 数が多かった 鳥類上位 2 種 | スズガモ(451 羽) カワウ(377 羽) | スズガモ(143 羽) ユリカモメ(40 羽) | スズガモ(2425 羽) ハマシギ(209 羽) |
| その他の 鳥類 | カモ類(カルガモ等)、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ウミウ、アオサギ、オオバン、イソシギ、カモメ類(ユリカモメ等)、トビ、ノスリ、ハクセキレイ | カモ類(コガモ等)、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、オオバン、シロチドリ、イソシギ、カモメ類(セグロカモメ等)、トビ、ハクセキレイ、タヒバリ | カモ類(クロガモ等)、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、クロツラヘラサギ、クイナ、シロチドリ、ミュビシギ、カモメ類(ユリカモメ等)、ミサゴ、ノスリ、カワセミ、タヒバリ |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 5 種を確認(ウミアイサ、オオバン、イソシギ、トビ、ノスリ)。 ・第六台場ではカワウが繁殖活動のため集まり、樹上で営巣していた。 ・アオサギの繁殖はまだ確認できなかった。 ・鳥の島、海浜公園の海上でカモ類が遊泳、休息。 ・海浜公園の砂浜でユリカモメが休息。 ・護岸でイソシギ、ハクセキレイが採餌。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 4 種を確認(オオバン、シロチドリ、イソシギ、トビ)。 ・ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモが護岸で休息、ホシハジロ、スズガモが海上で遊泳。 ・オオバンが海上で遊泳、採餌。 ・シロチドリが干潟で採餌。 ・カワウ、カモメ類が干潟で休息。 ・護岸でイソシギ、タヒバリ、ハクセキレイが採餌。 | <ul style="list-style-type: none"> ・重要種として 12 種を確認(クロガモ、ウミアイサ、コサギ、クロツラヘラサギ、クイナ、シロチドリ、ミュビシギ、ハマシギ、ズグロカモメ、ミサゴ、ノスリ、カワセミ)。 ・スズガモ、クロガモ、カンムリカイツブリが海上で遊泳。 ・カワウ、クロツラヘラサギが護岸で休息。 ・シロチドリ、ミュビシギ、ハマシギが干潟で採餌。 ・カモメ類が干潟で休息。 ・カワセミが干潟の水たまりにダイビングした後、飛び去る。 |

＜お台場海浜公園＞

○調査地点の状況

第六台場と鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



○出現種(カワウ・アオサギ)

カワウは1月の調査から合計100巣増加し、第六台場で269巣、鳥の島では19巣の営巣を確認した。巣内に大きく育ったヒナも見られた。アオサギは10羽と少ないが、嘴や脚が赤みを帯びた婚姻色の個体が見られた。



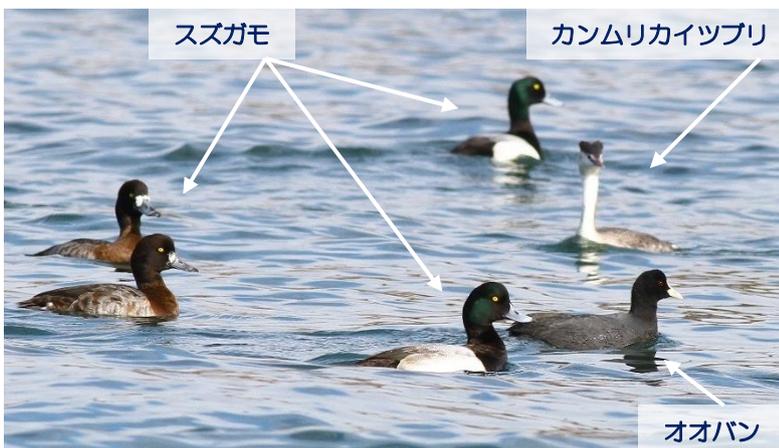
カワウのヒナ



婚姻色が出たアオサギ

○出現種(スズガモ、カンムリカイツブリ、オオバン等)

水面を利用するカモ類やカイツブリ類、オオバンは主に鳥の島周辺海上で確認された。スズガモとカルガモは鳥の島の浜辺に上がって休息する様子も見られた。



○出現種(ノスリ)

お台場海浜公園では初記録で、鳥の島の樹上にとまる1羽が見られた。本種は東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧IB類(EN)に指定されている。



＜森ヶ崎の鼻＞

○調査地点の状況

最干潮時刻だが、干潟の干出は少なかった。



○出現種(ヒドリガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ等)

水面と護岸にカモ類が多く、合計 9 種が確認された。このうち 7 種が水面採餌ガモで、護岸やその付近の海上にいることが多かった。留鳥のカルガモ以外は、いずれも冬鳥として渡来する。



オカヨシガモ (オス)



ヒドリガモ (オス)



マガモ (オス)



ハシビロガモ (メス)



カルガモ



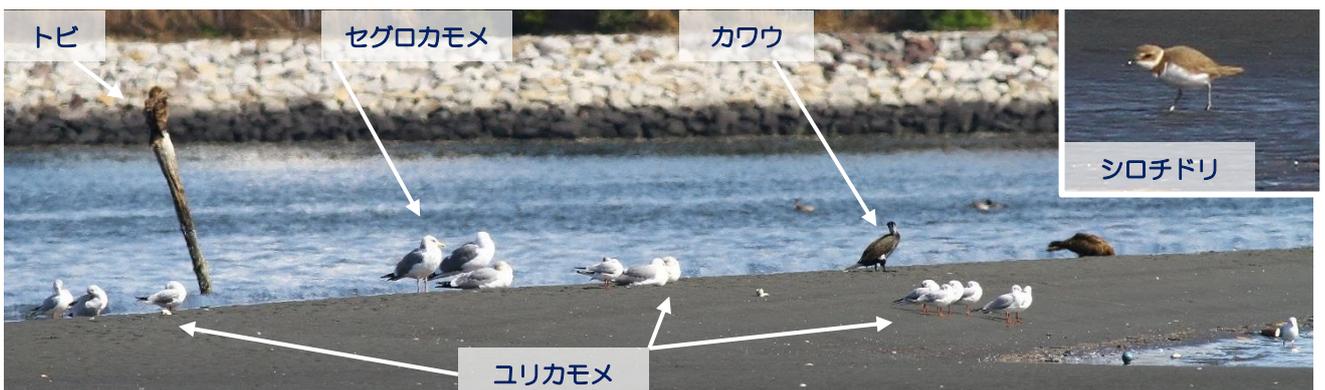
オナガガモ(オス、メス)



コガモ (オス)

○干潟利用状況

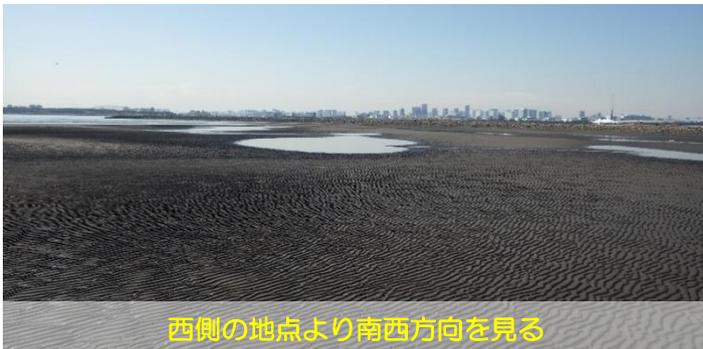
カワウ、アオサギ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビが干潟で休息していた。トビ 2 羽の飛来により、カモメ類やカワウの群れが一斉に飛び立つ様子が見られたが、時間が経つと再び干潟に戻り休息を続けた。このほか、シロチドリ 3 羽が干潟で採餌していた。トビは東京都レッドリスト(2010)で準絶滅危惧(NT)に、シロチドリは環境省レッドリスト(2019)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



<葛西人工渚>

○調査地点の状況

干潟は広く干出。調査終了頃に干潟は狭まっていた。



○干潟利用状況

干潟で採餌するシロチドリ、ハマシギの群れと、単独で採餌するミュビシギが確認された。ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、ミュビシギは東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧 I B 類(EN)に指定されている。



○海面の状況

スズガモ、クロガモ、カンムリカイツブリが群れで遊泳していた。



○出現種(ミサゴ)

中型のタカ類で主に魚類を捕食する。海上の杭にとまっていた他、干潟上を飛ぶ個体が見られた。本種は環境省レッドリスト(2019)で準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリスト(2010)で絶滅危惧 I B 類(EN)に指定されている。



○出現種(ズグロカモメ)

小型のカモメ類で、冬鳥として全国に渡来するが、九州や沖縄以外の個体数は少ない。干潟を飛びながら採餌する若鳥 2 羽が確認された。本種は環境省レッドリスト(2019)で絶滅危惧 II 類(VU)に指定されている。



<その他>

○ウミネコの繁殖

令和元年5月22日、6月19日の調査で繁殖を確認した構造物上では、12羽のウミネコ成鳥が確認されたが、営巣の兆候は見られなかった。



ウミネコが営巣する構造物



ウミネコ成鳥

<トピックス>

- スズガモの飛び立ち -

カルガモやオナガガモのように水面や浅瀬で採餌するカモ類が「水面採餌ガモ」と呼ばれるのに対し、スズガモなど潜水して採餌するカモ類は「潜水採餌ガモ」とされる。この2グループには採餌方法以外に飛び立ちの行動にも違いが見られる。水面採餌ガモは水面に浮いた状態から直接飛び立つことができるが、潜水採餌ガモは水面を長く助走した後によく飛び立つ。今回の調査では船の接近に驚き飛び立つスズガモが多く観察された。



助走をつけて飛び立つスズガモ（2点とも）